

福岡東医療センター内科専門研修プログラム

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準1】

1) 本プログラムは、福岡県粕屋保健医療圏の中心的な急性期病院である福岡東医療センターを基幹施設として、福岡県粕屋保健医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て福岡県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として福岡県全域を支える内科専門医の育成を行います。

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設1～2年間＋連携施設1～2年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度[研修カリキュラム](#)に定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 **Subspecialty** 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことにより、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによりリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準2】

1) 福岡県粕屋保健医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

1) 本プログラムは、福岡県粕屋保健医療圏の中心的な急性期病院である福岡東医療センターを基幹施設として、福岡県粕屋保健医療圏、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設1～2年間＋連携施設1～2年間の合計3年間になります。

- 2) 福岡東医療センター内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である福岡東医療センターは、福岡県粕屋保健医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携および診療所との病診連携を中心に経験できます。
- 4) 基幹施設である福岡東医療センターおよび連携施設での合計2年間（専攻医2年修了時）で、「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形式的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます（P. 61別表1「福岡東医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。
- 5) 福岡東医療センター内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修いずれかの時点で1～2年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 6) 基幹施設である福岡東医療センターでの1～2年間と専門研修施設群での1～2年間の合計3年間（専攻医3年修了時）で、「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。可能な限り、「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた70疾患群、200症例以上の経験を目標とします（P. 61別表1「福岡東医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

専門研修後の成果【整備基準3】

内科専門医の使命は、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- 2) 内科系救急医療の専門医
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

福岡東医療センター内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、福岡県粕屋保健医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整える経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～6)により、福岡東医療センター病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 7 名とします。

1) 剖検体数は 2015 年度 10 体 2016 年度 10 体、2017 年度 10 体です。

表. 福岡東医療センター診療科別診療実績

2017 年実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (実人数/年)
脳血管内科	447	1248
循環器内科	858	1108
糖尿病・内分泌内科	163	1576
血液腫瘍内科	370	490
腎臓内科	228	832
呼吸器内科	1470	2788
消化器・肝臓内科	1801	3032
感染症内科	127	108
救急科	156	3387

- 2) 膠原病（リウマチ）領域は診療科がありませんが、各診療科で診療しています。不足分は連携施設で経験していただく予定です。救急科の入院患者は少なめですが、これは入院時にすぐ担当診療科に振り分けているため、救急車搬送数は 2,766 台であり、walk-in の外来患者診療を含め、1 学年 7 名に対し十分な症例を経験可能です。
- 3) 11 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P. 15「福岡東医療センター内科専門研修施設群」参照）。
- 4) 1 学年 7 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた 45 疾患群、120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。
- 5) 専攻医 3 年目に研修する連携施設には、高次機能・専門病院 4 施設、地域基幹病院 6 施設および地域医療密着型病院 7 施設、計 17 施設あり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。
- 6) 専攻医 3 年修了時に「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた少なくとも 56 疾患群、160 症例以上の診療経験は達成可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

- 1) 専門知識【整備基準 4】 [「[内科研修カリキュラム項目表](#)」参照]
専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます。
「[内科研修カリキュラム項目表](#)」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします。
- 2) 専門技能【整備基準 5】 [「[技術・技能評価手帳](#)」参照]
内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に

患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

- 1) 到達目標【整備基準 8～10】（P. 61 別表 1「福岡東医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）
主担当医として「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修（専攻医）1年:

- ・症例：「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。
- ・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医とともに行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修（専攻医）2年:

- ・症例：「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、120 症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を終了します。
- ・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる
- ・360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）3年:

- ・症例：主担当医として「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。
- ・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
- ・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます。査読者の評価を受け、形式的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
- ・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善

とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナルリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします。日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

福岡東医療センター内科施設群専門研修では、「[研修カリキュラム項目表](#)」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間 (基幹施設 1~2 年間+連携施設 1~2 年間) とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に **Subspecialty** 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

2) 臨床現場での学習【整備基準 13】内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群 (経験すべき病態等を含む) に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します (下記 1) ~5) 参照)。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかつた症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくは **Subspecialty** の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院 (初診・入院~退院・通院) まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- ② 定期的 (毎週 1 回) に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ③ 総合内科外来 (初診を含む) と **Subspecialty** 診療科外来 (初診を含む) を少なくとも週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みます。
- ④ 救命救急センターの内科外来 (平日夕方) で内科領域の救急診療の経験を積みます。
- ⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。
- ⑥ 必要に応じて、**Subspecialty** 診療科検査を担当します。

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1) 内科領域の救急対応、2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4) 医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。

- ① 定期的 (毎週 1 回程度) に開催する各診療科での抄読会
- ② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会 (基幹施設 2017 年度実績 14 回)
※ 内科専攻医は年に 2 回以上受講します。
- ③ CPC (基幹施設 2017 年度実績 12 回)
- ④ 研修施設群合同カンファレンス (2018 年度: 年 2 回開催)
- ⑤ 地域参加型のカンファレンス (基幹施設: 北部カンファレンス、救急プライマリカンファレンス、臨床腫瘍カンファレンス、粕屋・宗像脳血管神経セミナー、福岡東脳卒中地域連携の夕べ、粕屋北部・宗像脳卒中与リハビリテーションフォーラム、かすや腎臓セミナー、九州沖縄腎生検フォーラム、粕屋北部・宗像糖尿病を考える会、北東部インクレチン研究会、呼吸器疾患カンファレンス、粕屋呼吸器ア-

ベント、粕屋呼吸器フォーラム、福岡 ICT 研究会、福岡呼吸器感染症研究会、福岡県 NPPV 研究会、循環器勉強会、福岡県胃集検協議会粕屋宗像支部例会；2016 年度実績 25 回)

⑥ JMECC 受講（基幹施設：2018 年度開催実績 0 回）

※ 内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。

⑦ 内科系学会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）

⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会

など

4) 自己学習【整備基準 15】

「[研修カリキュラム項目表](#)」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した）、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。（「[研修カリキュラム項目表](#)」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信

② 日本内科学会雑誌にある MCQ

③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

5) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（JOSLER）を用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。

- ・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- ・専攻医による逆評価を入力して記録します。
- ・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
- ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13, 14】

福岡東医療センター内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載した（P. 15「福岡東医療センター内科専門研修施設群」参照）。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である福岡東医療センター臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6, 12, 30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

福岡東医療センター内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても、

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
- ② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM:evidence based medicine）。
- ③ 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）。
- ④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。
といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて、
- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
- ② 後輩専攻医の指導を行う。
- ③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。
を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

福岡東医療センター内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院のいずれにおいても、

- ① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）。
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。
- ② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
- ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
- ④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います。

なお、専攻医が社会人大学院などを希望する場合でも、福岡東医療センター内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

福岡東医療センター内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記 1) ～10) について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である福岡東医療センター臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③ 患者から学ぶ姿勢
- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮
- ⑥ 医療安全への配慮
- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
- ⑧ 地域医療保健活動への参画
- ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力

⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけでなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11, 28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。福岡東医療センター内科専門研修施設群研修施設は福岡県粕屋保健医療圏、近隣医療圏の医療機関から構成されています。

福岡東医療センターは、福岡県粕屋保健医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である九州大学病院、九州がんセンター、小倉医療センター、製鉄記念八幡病院、地域基幹病院である原三信病院、福岡市民病院、福岡山王病院、宗像医師会病院、宗像水光会病院、和白病院および地域医療密着型病院である福岡病院、白十字病院、西福岡病院、大牟田病院、門司掖済会病院、直方病院、稲築病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、福岡東医療センターと異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

福岡東医療センター内科専門研修施設群(P. 15)は、福岡県粕屋保健医療圏、近隣医療圏の医療機関から構成しています。最も距離が離れている門司掖済会病院は北九州市内であり、福岡東医療センターから電車を利用して、1時間程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いです。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

福岡東医療センター内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

福岡東医療センター内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携を中心に経験できます。

11. 内科専攻医研修【整備基準 16】

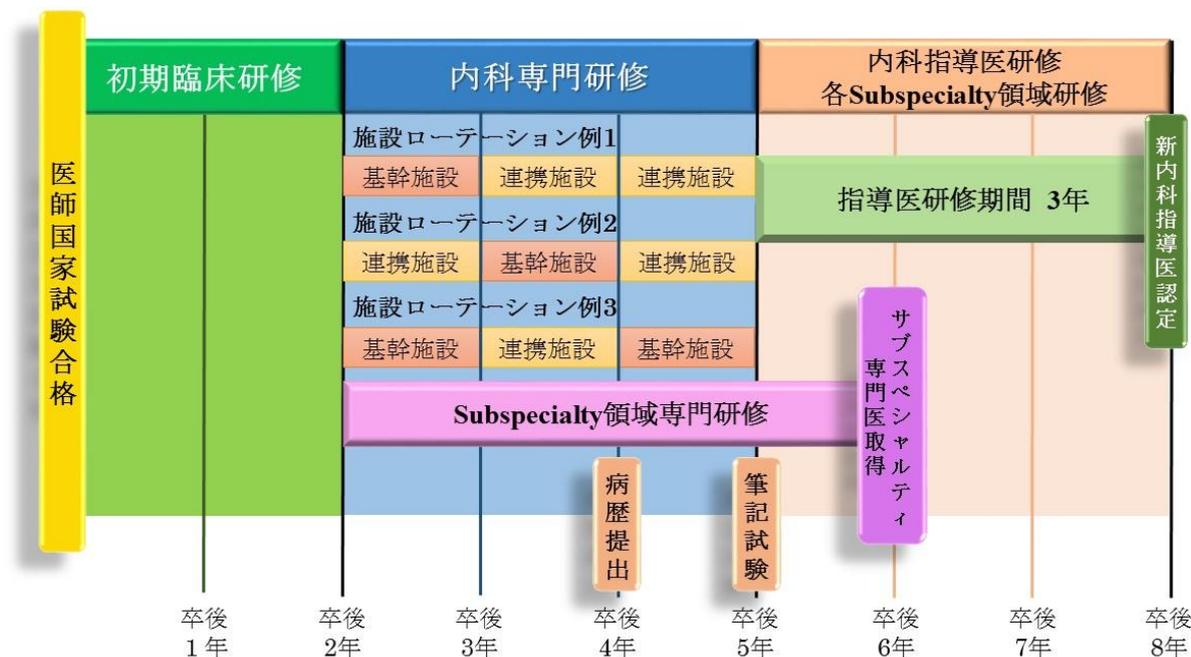


図1：福岡東医療センター内科専門研修プログラム(概念図)

基幹施設である福岡東医療センター内科および連携施設で、専門研修（専攻医）2年目までの間に1年間ずつの専門研修を行います。

専攻医2年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）3年目の研修施設を調整し決定します（図1）。なお，研修達成度によってはSubspecialty研修も可能です（個人により異なります）。

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19～22】

(1) 福岡東医療センター臨床研修センターの役割

- ・福岡東医療センター内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
- ・福岡東医療センター内科専門研修プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- ・3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します。また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・年に複数回（8月と2月，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，1か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って，改善を促します。
- ・臨床研修センターは，メディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8月と2月，必要に応じて臨時に）を行います。担当指導医，Subspecialty 上級医に加えて，看護師長，看護師，臨床検査・放射線技師・臨床工学技士，事務員などから，接点の多い職員5人を指名し，評価します。

評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され、担当指導医から形式的にフィードバックを行います。

- ・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- ・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が福岡東医療センター内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- ・専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- ・専攻医は、1 年目専門研修終了時に[研修カリキュラム](#)に定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は **Subspecialty** の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と **Subspecialty** の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- ・担当指導医は **Subspecialty** 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- ・専攻医は、専門研修（専攻医）2 年修了時まで 29 症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形式的評価に基づき、専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形式的に深化させます。

(3) 評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに福岡東医療センター内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

1) 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し、以下 i)～vi)の修了を確認します。

- i) 主担当医として「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済み（P. 61 別表 1「福岡東医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。
- ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形式的評価後の受理（アクセプト）
- iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
- iv) JMECC 受講

- v) プログラムで定める講習会受講 vi) 日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価 (内科専門研修評価) と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性
- 2) 福岡東医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に福岡東医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」, 「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画 (FD) の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用います。なお、「福岡東医療センター内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】 (P. 52) と「福岡東医療センター内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】 (P. 58) と別に示します。

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34, 35, 37~39】

(P. 51「福岡東医療センター内科専門研修管理委員会」参照)

- 1) 福岡東医療センター内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
 - i) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者 (副院長), プログラム管理者 (臨床研究部長) (ともに総合内科専門医かつ指導医), 事務局代表者, 内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者 (診療科科長) および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる (P. 51 福岡東医療センター内科専門研修プログラム管理委員会参照)。福岡東医療センター内科専門研修管理委員会の事務局を、福岡東医療センター臨床研修センターにおきます。
 - ii) 福岡東医療センター内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名 (指導医) は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 6 月と 12 月に開催する福岡東医療センター内科専門研修管理委員会の委員として出席します。
 基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、福岡東医療センター内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。
 - ① 前年度の診療実績
 - a) 病院病床数, b) 内科病床数, c) 内科診療科数, d) 1 か月あたり内科外来患者数, e) 1 か月あたり内科入院患者数, f) 剖検数
 - ② 専門研修指導医数および専攻医数
 - a) 前年度の専攻医の指導実績, b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数, c) 今年度の専攻医数, d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数。
 - ③ 前年度の学術活動
 - a) 学会発表, b) 論文発表
 - ④ 施設状況
 - a) 施設区分, b) 指導可能領域, c) 内科カンファレンス, d) 他科との合同カンファレンス, e) 抄読会, f) 机, g) 図書館, h) 文献検索システム, i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会, j) JMECC の開催。
 - ⑤ Subspecialty 領域の専門医数
 日本消化器病学会消化器専門医数, 日本循環器学会循環器専門医数, 日本内分泌学会専門医数, 日本糖尿病学会専門医数, 日本腎臓病学会専門医数, 日本肝臓学会専門医数, 日本呼吸器学会呼吸器専門医数, 日本血液学会血液専門医数, 日本神経学会神経内科専門医数, 日本アレルギー学会専門医 (内科) 数, 日本リウマチ学会専門医数, 日本感染症学会専門医数, 日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修 (FD) の計画【整備基準 18, 43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修 (FD) の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能 (労務管理)【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修 (専攻医) はその時点で所属する施設(基幹病院、連携施設)の就業環境に基づき、就業します (P. 15「福岡東医療センター内科専門研修施設群」参照)。

基幹施設である福岡東医療センターの整備状況：

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・国立病院機構非常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (管理課職員担当) があります。
- ・ハラスメント委員会は院内に整備する予定です。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P.15「福岡東医療センター内科専門施設群」を参照。また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は福岡東医療センター内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

- 1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に1回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、福岡東医療センター内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。
- 2) 専攻医等からの評価 (フィードバック) をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会、福岡東医療センター内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、福岡東医療センター内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。
 - ① 即時改善を要する事項
 - ② 年度内に改善を要する事項
 - ③ 数年をかけて改善を要する事項
 - ④ 内科領域全体で改善を要する事項
 - ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- ・担当指導医，施設の内科研修委員会，福岡東医療センター内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，福岡東医療センター内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して福岡東医療センター内科専門研修プログラムを評価します。
- ・担当指導医，各施設の内科研修委員会，福岡東医療センター内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます。状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます。

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

福岡東医療センター臨床研修センターと福岡東医療センター内科専門研修プログラム管理委員会は，福岡東医療センター内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に，必要に応じて福岡東医療センター内科専門研修プログラムの改良を行います。

福岡東医療センター内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，website での公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は，福岡東医療センター臨床研修センターの website の福岡東医療センター医師募集要項（福岡東医療センター内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。書類選考および面接を行い，福岡東医療センター内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します。

(問い合わせ先) 福岡東医療センター臨床研修センター

E-mail: shomu@fukuokae2.hosp.go.jp HP: www.fe-med.jp

電話：092-943-2331 (代)

福岡東医療センター内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行います。

18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて福岡東医療センター内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します。これに基づき，福岡東医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから福岡東医療センター内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から福岡東医療センター内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに福岡東医療センター内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ休職期間が6ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止

の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1日8時間、週5日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

福岡東医療センター内科専門研修施設群

研修期間：3年間（基幹施設1～2年間＋連携施設1～2年間）

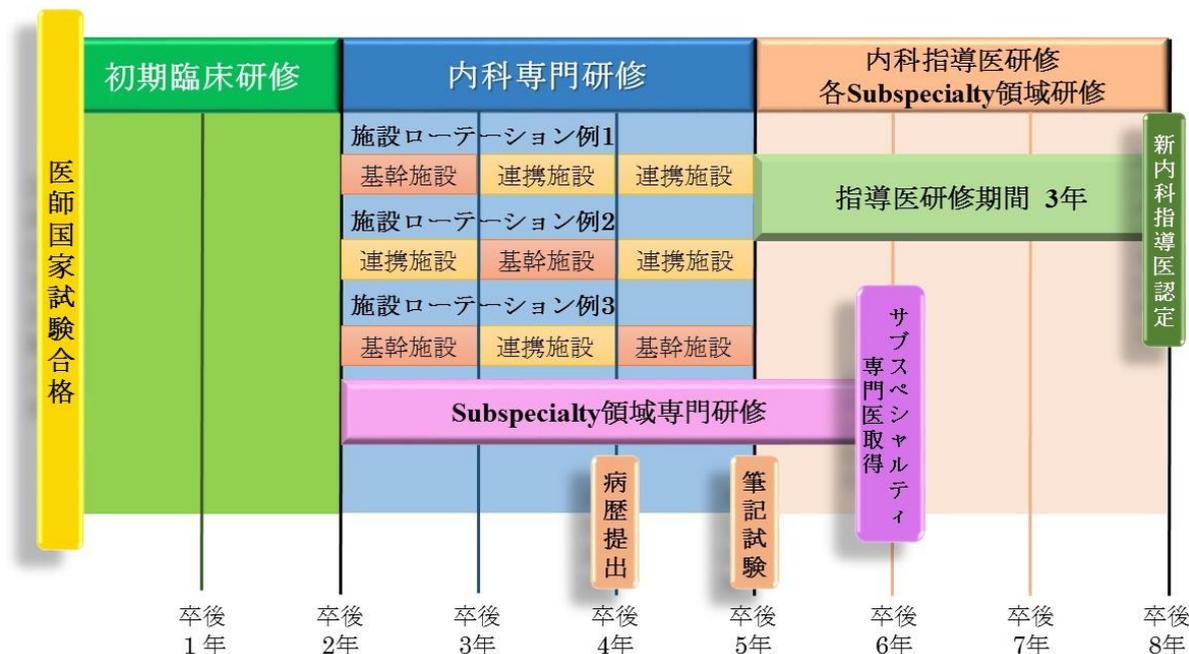


図1：福岡東医療センター内科専門研修プログラム(概念図)

表1. 福岡東医療センター内科専門研修施設群研修施設

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科剖検数
基幹施設	福岡東医療センター	591	210	10	19	12	13
連携施設	九州大学病院	1238	338	14	87	40	25
連携施設	九州がんセンター	411		6	13	7	7
連携施設	小倉医療センター	400	130	8	11	7	2
連携施設	製鉄記念八幡病院	453	203	8	14	6	11
連携施設	原三信病院	359	177	3	16	10	1
連携施設	福岡市民病院	204		7	7	3	1
連携施設	福岡山王病院	199	60	12	26	8	1
連携施設	宗像医師会病院	164	125	7	5	3	0
連携施設	宗像水光会総合病院	300	72	3	8	2	1
連携施設	和白病院	367	100	9	7	2	1
連携施設	福岡病院	360	142	7	13	5	2
連携施設	白十字病院	466	158	9	11	8	2
連携施設	西福岡病院	248		9	10	3	0
連携施設	大牟田病院	402	322	4	6	5	7
連携施設	門司掖済会病院	199	55	7	5	3	1
連携施設	直方病院	156	80	7	3	2	1
連携施設	稲築病院	181		1	3	0	0
研修施設合計					256	125	76

表2.各内科専門研修施設の内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
福岡東医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
九州大学病院	△	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○
九州がんセンター	○	○	×	○	○	△	△	○	△	×	△	△	△
小倉医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
製鉄記念八幡病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
原三信病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福岡市民病院	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	×	○	○
福岡山王病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
宗像医師会病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
宗像水光会総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
和白病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福岡病院	○	×	△	×	×	×	○	×	×	○	○	○	×
白十字病院	×	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×
西福岡病院	○	○	△	×	△	×	○	×	×	×	×	×	×
大牟田病院	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×
門司掖済会病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
直方病院	○	○	△	△	○	○	○	○	○	△	×	○	○
稲築病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

各研修施設での内科13領域における診療経験の研修可能性を3段階(○, △, ×)に評価しました。(○:研修出来る △:時に研修出来る ×:ほとんど研修出来ない)

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。福岡東医療センター内科専門研修施設群研修施設は福岡県の医療機関から構成されています。

福岡東医療センターは、福岡県粕屋保健医療圏の中心的な急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である九州大学病院、九州がんセンター、小倉医療センター、製鉄記念八幡病院、地域基幹病院である原三信病院、福岡市民病院、福岡山王病院、宗像医師会病院、宗像水光会病院、和白病院および地域医療密着型病院である福岡病院、白十字病院、西福岡病院、大牟田病院、門司掖済会病院、直方病院、稲築病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では、福岡東医療センターと異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

専門研修施設（連携施設）の選択

- ・ 研修施設の選択は専攻医の希望・将来像などを基に行います。
- ・ 専攻医 3 年間のうちの 1～2 年間、連携施設で研修をします（図 1）。なお、研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

福岡県粕屋保健医療圏と近隣医療圏にある施設から構成しています。最も距離が離れている門司掖済会病院は北九州市内であり、福岡東医療センターから電車を利用して、1 時間程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いです。

1) 専門研修基幹施設

福岡東医療センター

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 国立病院機構非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が院内に整備される予定です。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 20 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（臨床研究部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2017 年度実績 14 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2017 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	<p>・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：北部カンファレンス、救急プライマリカンファレンス、臨床腫瘍カンファレンス、粕屋・宗像脳血管神経セミナー、福岡東脳卒中地域連携のタバ、粕屋北部・宗像脳卒中とリハビリテーションフォーラム、かすや腎臓セミナー、九州沖縄腎生検フォーラム、粕屋北部・宗像糖尿病を考える会、北東部インクレチン研究会、呼吸器疾患カンファレンス、粕屋呼吸器イベント、粕屋呼吸器フォーラム、福岡 ICT 研究会、福岡呼吸器感染症研究会、福岡県 NPPV 研究会、循環器勉強会、福岡県胃集検協議会粕屋宗像支部例会；2016 年度実績 25 回）</p> <p>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2018 年度開催実績 0 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。</p> <p>・特別連携施設の専門研修は、本プログラムにはありませんが、今後地域医療の現状から追加の必要性が認められた場合にはプログラム委員会で検討します。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 11 分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。</p> <p>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。</p> <p>・専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 10 体、2016 年度 10 体）を行っています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>・臨床研究に必要な図書室、臨床研究室などを整備しています。</p> <p>・倫理委員会を設置し、定期的開催（2014 年度実績 12 回）しています。</p> <p>・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。</p> <p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計 3 演題以上の学会発表（2017 年度実績 3 演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>黒岩 三佳 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡東医療センターは、福岡県粕屋保健医療圏の中心的な急性期病院であり、福岡医療圏・近隣医療圏にある連携施設として内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 20 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 2 名、 日本救急医学会救急科専門医 3 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>内科系外来患者 5240 名（1ヶ月平均） 内科系入院患者 814 名（1ヶ月平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設</p>

	<p>日本神経学会専門医制度准教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設 など</p>
--	--

2) 専門研修連携施設

1. 九州大学病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・九州大学シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が九州大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 87 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 医療倫理 1 回(4 月に就職時に参加が必須。今後は年度内に複数回の定期開催を予定)、医療安全 40 回、感染対策 40 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 85 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 6 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、リウマチ、膠原病、感染症および救急の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 22 演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>中村 和彦 【内科専攻医へのメッセージ】 九州大学病院は福岡県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に協力病院として大学病院の内科系診療科も加わることで、リサーチマインドの育成などを含む質の高い内科医の育成を目指します。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全・倫理を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 87 名、日本内科学会総合内科専門医 40 名 日本消化器病学会消化器専門医 19 名、日本循環器学会循環器専門医 28 名、 日本内分泌学会専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 13 名、 日本腎臓病学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、 日本血液学会血液専門医 13 名、日本神経学会神経内科専門医 12 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）9 名、日本リウマチ学会専門医 12 名、 日本感染症学会専門医 11 名、日本救急医学会救急科専門医 8 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>内科系外来患者 13,195 名（1 ヶ月平均）内科系入院患者 10,814 名（1 ヶ月平均延数）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>

<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会研修診療施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本東洋医学会教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など</p>

2. 九州がんセンター

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理科職員担当）があります。 ・監査・コンプライアンス室が国立病院機構本部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 13 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014 年度実績、医療安全 3 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2014 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2014 年度実績地元医師会合同勉強会 1 回、多地点合同メディカル・カンファレンス 20 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、肝臓、代謝、呼吸器および血液の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 8 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2014 年度実績 6 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 6 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
<p>指導責任者</p>	<p>杉本 理恵</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は九州で唯一のがん専門病院です。がんの早期発見やステージングの為の様々なデバイスを用いた適格な診断方法、標準的化学療法や放射線治療などを組み合わせた集学的治療、希少がんの診断と治療、薬物や内視鏡治療などを含めた多面的な緩和治療、さらに在宅支援や緩和ケア病院との地域連携、様々な治験や臨床研究、がんの栄養療法などがんに関する様々な事を学び、技術を習得できます。またがん診療のみならず付随しておこる感染症や代謝性疾患などの内科疾患についても幅広く経験することができます。当院で研修することで内科専門医のみならず subspeciality の資格を得るためにも必要な症例を担当することができます。ぜひ我々と一緒にがんの high volume center で研修してみませんか。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、指導医 2 名、 日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本肝臓学会専門医 2 名、指導医 1 名 日本血液学会血液専門医 6 名、指導医 5 名 臨床腫瘍学会薬物療法専門医 4 名、指導医 2 名、日本内視鏡学会専門医 2 名 がん治療認定医 11 名、暫定指導医 2 名 ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 7,492 名（1 ヶ月平均） 入院患者 651 名（1 ヶ月平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、全ての固形癌、血液腫瘍の内科治療を経験でき、付随するオンコロジーエマージェンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。</p>

	2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーなど、幅広いがん診療を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本肝臓学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本乳癌学会認定施設 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 など

3. 独立行政法人国立病院機構小倉医療センター

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度の基幹型および協力型研修指定病院です。 ・施設内に研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構非常勤医師として適切な勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署が整備されています。 ・ハラスメントに適切に対処する部署が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 11 名在籍しています。(有資格者で内科学会指導医申請予定者を含む) ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策等の講習会を定期的開催(2015 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。医療倫理の講習会については昨年度の開催実績はありませんが、基幹施設で行なう講習会の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催(2015 年度実績 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検(2015 年度実績 1 体)を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2015 年度実績 1 演題)をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
<p>指導責任者</p>	<p>佐藤丈頭</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 5 名 日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本血液学会血液専門医 3 名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 15,108 名(1 ヶ月平均) 入院患者 1,119 名(1 ヶ月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>1) 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群のうち、すべての分野を幅広く経験できます。 2) 特に総合内科(一般、高齢者、腫瘍)、消化器、内分泌、代謝、呼吸器、血液疾患については多くの症例を経験できます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>当院は地域医療支援病院であり、病院敷地内に医師会の介護サービス総合センターが立地しています。地域医療連携室等地域医療と連携できる体制が整っています。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会教育関連病院 ・日本消化器病学会認定施設 ・日本肝臓学会認定施設

	<ul style="list-style-type: none">・日本糖尿病学会教育施設・日本呼吸器学会関連施設・日本血液学会血液研修施設・日本消化器内視鏡学会指導施設・日本がん治療認定医機構研修施設・日本肥満学会専門施設・日本高血圧学会 専門医認定施設 など
--	--

4. 社会医療法人 製鉄記念八幡病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として採用し労務環境を保障しています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があり、1回/年のストレスチェックを実施しています。 ・過勤務は毎月人事課より幹部会議に報告され、長時間勤務者は病院長による面談により状況把握並びに改善策を検討しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室、仮眠室、休憩室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、365日24時間利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が9名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績 医療倫理1回、医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催（2015年度実績8回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、腎臓、神経および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2015年度実績10体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2014年度実績3演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2014年度実績3回）しています。 ・臨床研究支援室を設置し、定期的に治験審査会を開催（2014年度実績6回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
<p>指導責任者</p>	<p>古賀徳之</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は内科が主体の病院です。総合内科、消化管、肝臓、循環器、糖尿病、呼吸器、腎臓、神経、救急において、高度急性期医療から回復期、在宅、終末期医療までチーム医療や地域医療との診療連携も含めた十分な研修ができます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 13名、日本内科学会総合内科専門医 6名 日本消化器病学会消化器専門医4名、日本循環器学会循環器専門医4名、 日本糖尿病学会専門医3名、日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、 日本腎臓学会専門医4名、日本肝臓学会専門医2名、 日本救急医学会専門医1名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 498名（1日平均） 入院患者 346名（1日平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群のうち、血液、膠原病、内分泌を除く疾患群の内科診療を経験できます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>1) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます</p> <p>2) 特に冠動脈、脳血管、シヤントをはじめとする心血管インターベンション、がんの診断、抗がん剤治療、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療などを経験できます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>近隣のクリニックとの前方連携、療養型病院との後方連携による地域医療・診療連携を経験できます。また高齢者総合評価に基づく高齢者在宅復帰に向けチーム医療を経験できます</p>

<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本心身医学会認定医制度研修診療施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本乳癌学会関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本老年医学会認定研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本静脈経腸栄養学会NST実地修練認定教育施設 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設 日本病理学会研修認定施設B 日本臨床細胞学会施設認定、教育研修施設、コントロールサーベイ など</p>
-------------------------	--

5. 医療法人 原三信病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医、専門医等が下記の通り在籍しています。 ・教育研修委員会があり、施設内の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014 年度実績 医療倫理 3 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2015 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地元医師会勉強会窓）専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 1 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・治験事務局を設置し、定期的治験審査委員会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も行われています。
<p>指導責任者</p>	<p>高木陽一</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>福岡県内でも有数のがん治療病院として、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、訪問看護ステーションを設置し、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます。また、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 3名、日本内科学会総合内科専門医 10名 日本消化器病学会消化器専門医 2名、日本循環器学会循環器専門医 3名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名、日本肝臓学会専門医 1名 日本血液学会血液専門医 3名、日本腎臓学会専門医 4名ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 499.5 名 (1 日平均) 入院患者 289.7 名 (1 日平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、全ての固形癌、血液腫瘍の内科治療を経験でき、付随するオンコロジーエマージェンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
<p>経験できる技術・技能</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 福岡県内でも有数のがん治療病院として、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療等幅広いがん診療を経験できます。又、心血管インターベンション治療を含め幅広く内科救急医療を経験でき、技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら経験することができます。
<p>経験できる地域医</p>	<p>在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験</p>

療・診療連携	できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会教育関連病院 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脈管学会認定研修関連施設 日本透析医学会教育関連施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本麻酔科学会麻酔科認定病院 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 福岡県肝疾患専門医療機関 日本乳癌学会認定施設 日本内分泌外科学会・日本甲状腺外科学会認定施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本産婦人科内視鏡学会認定研修施設 マンモグラフィ検診施設画像認定 臨床研修病院 など</p>

6. 地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人福岡市立病院機構有期職員として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当）があります。 ・セクシュアル・ハラスメントの対策等に関する委員会が機構本部にて整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・同一機構である福岡市立こども病院敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が7名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014年度実績 医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・本院でのCPC（2014年度実績1回）、または九州大学形態機能病理学教室で実施される病理解剖の参加を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2014年度実績 福岡東部オープンカンファレンス4回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、神経、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題）を予定しています。
指導責任者	小柳 年正 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡市民病院は、高度救急・高度専門医療を提供する地域の中核病院であり、福岡東医療センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 1名、日本内科学会総合内科専門医 3名 日本内科学会認定内科医 7名、日本消化器病学会指導医 1名、 日本消化器病学会専門医 2名、日本肝臓学会指導医 1名、 日本肝臓学会専門医 2名、日本循環器学会循環器専門医 1名、 日本心血管インターベンション治療学会指導医 1名、 日本心血管インターベンション治療学会専門医 1名、 日本糖尿病学会研修指導医 1名、日本糖尿病学会専門医 1名、 日本内分泌学会指導医 1名、日本内分泌学会専門医 1名、 日本神経学会指導医 2名、日本神経学会専門医 2名、 日本脳卒中学会専門医 1名、日本腎臓学会専門医 1名、 日本透析医学会専門医 1名、感染制御医 1名、
外来・入院患者数	外来患者 4,977 名（1ヶ月平均延数） 入院患者 5,485 名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 8 領域の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本内科学会認定制度教育関連病院

(内科系)	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設
-------	--

7. 福岡山王病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・監査・コンプライアンスはグループ本部（東京事務所）で整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 26 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014 年度実績 医療倫理 3 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2014 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2014 年度実績 全国心臓カテーテル LIVE 研修会 1 回、福岡県内フットケア連携協議会 1 回、福岡県内循環器症例検討会 2 回、福岡県内脳神経機能センター連携協議会 1 回、福岡県内排便研究会 2 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、代謝、呼吸器、神経および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。総合内科、内科救急、感染症分野でも患者を受け入れており、研修可能です。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 2 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2014 年度実績 6 回）しています。 ・治験管理委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・内科各分野の学会で学会発表を行うほか、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われており、専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
<p>指導責任者</p>	<p>石橋大海</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>福岡山王病院は、「生命（いのち）の尊厳、生命（いのち）の平等」の理念のもとに、2009 年 5 月、国際医療福祉大学・医療法人社団高邦会グループの一員として福岡市百道浜に開院した、21 世紀の先端医療を担う総合病院です。最高の医師・医療スタッフによって、最新の医療機器を駆使した、質の高い医療の提供に努めています。専門性の高い不整脈の治療カテーテルアブレーションや心臓カテーテル治療、消化器内視鏡検査やてんかんの診断・治療のほか、予防医学（人間ドック）やリハビリテーションにも注力していますので、予防からリハビリまで、総合的に最良の研修が行える環境にあります。幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 26 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器指導医 5 名・同専門医 2 名、 日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本冊臓学会指導医 1 名・同専門医 2 名、日本内分泌学会指導医 2 名、 日本糖尿病学会指導医 1 名・同専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、 日本血液学会血液専門医 1 名、日本神経学会指導医 2 名・同専門医 2 名、 日本感染症学会指導医 2 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 8,434 名（1ヶ月平均） 入院患者 594 名（1ヶ月平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、消化器、循環器、内分</p>

	<p>泌・代謝, 呼吸器, 血液, アレルギー (全身疾患・その他, 膠原病, 感染症 (ウイルス疾患), 救急等について, 経験できます.</p> <p>2) 研修手帳の一部の疾患を除き, 多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について, 幅広く経験することが可能です.</p> <p>3) 予防医学 (人間ドック), リハビリテーションも経験可能です.</p>
経験できる技術・技能	<p>1) 内科各分野の基本的診断法, 内視鏡検査・治療, インターベンショナルラジオロジー, 放射線診断・治療など, 幅広い診療技術を経験できます.</p> <p>2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>地域の医療機関と連携しており, それらの医療施設との診療連携を経験できます.</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器学会認定関連施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本病理学会研修登録施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本神経学会准教育施設 日本てんかん学会専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本乳癌学会関連施設 日本ペインクリニック学会専門医指定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本麻酔科学会認定施設 日本脳ドック学会認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 など</p>

8. 宗像医師会病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●非常勤医師としての勤務環境は院内の規定に基づいて保障されています。 ●メンタルストレスに対しては院内の産業医が対処します。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、当直室が整備されています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医が5名在籍しています（下記）。 ●内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績 医療倫理1回、医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPCを必要時に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンス（2015年度実績2回）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績1演題）をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●倫理委員会を設置し、定期的に参加（2015年度実績5回）しています。 ●必要に応じて、治験審査委員会を開催しています。 ●専攻医が学会に参加・発表する機会があります。
<p>指導責任者</p>	<p>伊東裕幸</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は宗像地区の地域支援病院として地域の診療所と連携しながら医療を提供しており、「お互いの顔が見える病診連携」を目指しています。内科医として消化器、循環器、呼吸器、膠原病、腎臓病を中心に幅広い症例を経験できます。消化器癌に関しては内科、外科、放射線科が密に連絡を取りながら診断、治療を行なっています。緩和ケア病棟では緩和ケア治療、終末期医療についても経験することができます。患者さんの高齢化に伴い、患者さんの内科的疾患を治療するだけでなく認知症のケアや社会的背景などを加味した対応を行なっていく必要がしばしば生じており、他職種での協働作業を進めることとなります。当院での研修を通じて全人的な医療を行なえる内科医が育つことを期待します。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 5名 日本内科学会総合内科専門医 3名 日本循環器学会専門医 1名 日本リウマチ学会専門医 1名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1名 日本脳卒中学会専門医 1名 日本腎臓学会専門医 1名 日本透析学会専門医 1名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 3,895名（1ヶ月平均） 入院患者 230名（1ヶ月平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>1) 研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、膠原病、感染症および救急を中心とした内科疾患を幅広く経験できます。終末期医療や在宅診療についても経験できます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>1) 消化管内視鏡による消化管検査・処置、ERCP 2) 人工透析、腹膜透析 3) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>

<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>希望に応じて在宅診療をおこなっている診療所や訪問看護ステーションなどと在宅医療・診療連携を経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本リウマチ学会教育施設 日本循環器学会研修関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本乳癌学会関連施設 日本病理学会登録施設 日本リウマチ財団災害時リウマチ患者支援事業協力医療機関</p>

9. 宗像水光会総合病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が8名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014年度実績 医療倫理2回、医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2014年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2014年度実績地元医師会合同勉強会3回、多地点合同メディカル・カンファレンス2回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2014年度実績1体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計1演題以上の学会発表（2014年度実績1演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014年度実績3回）しています。 ・専攻医が学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も支援しています。
<p>指導責任者</p>	<p>古野 貴</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>宗像医療圏の中核病院として、高度急性期から回復期までの医療を提供しています。特に循環器では外科とも連携し幅広い疾病に対応するとともに、在宅（訪問）診療や介護・福祉施設との地域医療・診療連携についても経験できます。また、多数の外来・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く研修を行うことができます。幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 8名、日本内科学会総合内科専門医 2名 日本消化器病学会消化器専門医 1名、日本循環器学会循環器専門医 5名、 日本糖尿病学会専門医 1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名、 日本心血管インターベンション治療学会指導医 2名ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者名 13,000人（1ヶ月平均） 入院患者 450名（1ヶ月平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の全ての症例が経験可能である 2) 一般外来、救急外来・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。
<p>経験できる技術・技</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 循環器の分野ではPCI、アブレーションだけでなくICD埋め込みなど幅広く処置、手

能	術が経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	在宅医との連携、介護施設等とのネットワークにより地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本脈管学会認定研修指定施設 など

10. 福岡和白病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する臨床心理士が定期的に来院しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・提携院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が7名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014年度実績 医療倫理1回、医療安全28回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを開催（2014年度実績3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2014年度実績 地域参加型カンファレンス9回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全ての分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2014年度実績3体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2014年度実績1演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2014年度実績1回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014年度実績12回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
<p>指導責任者</p>	<p>田口 文博</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は福岡市内でも屈指の救急指定病院であり、心臓大血管緊急手術が必要な重症例にいたるまで24時間常時救急対応可能であり、幅広く急性期疾患を経験できます。地域診療拠点病院として、糖尿病や呼吸器、消化器疾患などの慢性疾患も近隣の医療機関と連携しながら診療を進めています。さらに院内製剤によるPET施設を併設しており迅速なPET診断が可能のほか、リニアック、γナイフなどの放射線治療施設、H27年にリニューアルした16床の外来化学療法室も完備しており、がん診療にも積極的に取り組んでいます。内視鏡もESDを含めて症例多数あり消化器内科領域の専門医を目指す専攻医の皆さんにも当院での研修をお勧めしたいところです。九大病院内科系診療科の連携施設でもありますので、進路の多様性があるのも特徴の一つです。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 5名、日本内科学会総合内科専門医 3名 日本消化器病学会消化器専門医 2名、日本循環器学会循環器専門医 10名、 日本糖尿病学会指導医 1名、日本血液学会血液専門医 1名 ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 3,677名（1ヶ月平均） 入院患者 278名（1ヶ月平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群のうち、急性期症候を示すほとんどの領域のほか、慢性疾患、腫瘍性疾患において診断、治療の経験が可能です。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>挿管・人工呼吸器管理を含む急性期医療 高機能画像診断装置を用いた画像診断 がんの診断・治療</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。</p>

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医制度研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設（関連施設） 日本消化器病学会専門医制度関連施設

11. 福岡病院

<p>認定基準【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構の非常勤医師等として勤務環境が整備されています。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります。 ・ハラスメントに関する相談等に対応するため、就業規則に基づきハラスメント相談窓口が設置されています。 ・国立病院機構の規定に基づき、コンプライアンス担当者が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が13名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る予定です。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（年4回）←2014年度実績（医療倫理0回、医療安全=2回、感染対策=2回） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2015年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2014年度実績福岡南呼吸器検討会5回、筑紫呼吸器検討会4回、南区合同症例検討会3回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、呼吸器およびアレルギー、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2014年度実績2体）を行っています。
<p>認定基準【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2014年度実績1演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014年度実績11回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に応援研究審査会を開催（2014年度実績12回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行う予定です。
<p>指導責任者</p>	<p>吉田 誠</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国立病院機構福岡病院は、全国に144ある国立病院機構病院の一翼を担っています。その中において、福岡病院は個性あふれる病院を目指しています。専門性の高さ、患者さんにやさしい病院スタッフの育成、職員同士の切磋琢磨する気風、臨床研究の風土などを特徴とする病院です。特に呼吸器・アレルギー、膠原病リウマチは多くの学会専門医を擁しています。</p> <p>呼吸器内科は急性期から慢性期までの、結核を除くほとんどの呼吸器疾患を対象としており、ことに喘息・COPD診療、呼吸リハビリテーション、睡眠呼吸障害医療、禁煙外来などが出色です。アレルギー診療はアレルギー科、皮膚科、耳鼻咽喉科が連携して、喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、花粉症などを総合的に診療しています。また福岡県の花粉情報を担当しています。</p> <p>膠原病内科（リウマチ科）は、関節リウマチの新薬が続々登場して治療内容が激変しており、関節変形を起こさない治療を目指しています。平成24年4月から循環器内科を新設し、慢性心不全の診療や心臓リハビリテーションを開始しました。平成26年11月、新しく</p>

	<p>一般病棟の新築が完成し、診療、療養環境が一新いたしました。さらに診療の充実度を増していこうと職員一同頑張っております。</p> <p>このユニークで、内科症例数も多い当院での研修はきっと専攻医の先生方にとって大変魅力的で役にたつと考えております。</p>
指導医数（常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 13 名、感染症学会指導医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 6,026 名（1 ヶ月平均） 入院患者 8,680 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	<ol style="list-style-type: none"> 1). 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、呼吸器、アレルギー、膠原病、感染症を経験でき呼吸不全緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2). 多数の通院・入院患者に発生した内科疾患についてきわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある呼吸器、アレルギー、膠原病、感染症の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	<ol style="list-style-type: none"> 1). 日本屈指の呼吸器アレルギー疾患専門病院において、診断、治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、気管支内視鏡検査・治療など幅広い診療を経験できます。 2). 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	福岡南呼吸器検討会や筑紫呼吸器検討会など、疾患の検討会を開催し、地域の先生方との交流をはかることによって、密接な連携が可能となっています。
学会認定施設（内科系）	日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設（内科）、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本心身医学会研修診療施設、日本感染症学会研修施設、日本睡眠学会認定医療機関、日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設、臨床研修指定病院（呼吸器疾患・免疫アレルギー疾患）、臨床修練指定病院（呼吸器疾患・免疫アレルギー疾患）

12. 白十字病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 11 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 4 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2015 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）へ定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（そつたく会 2015 年度実績 5 回）を定期的開催し、専攻医に受講の時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、代謝、腎臓および神経の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 2 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2015 年度実績 4 演題）しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2015 年度実績 3 回）しています。 ・治験管理室を設置し、必要に応じて受託研究審査会を開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、国内学会には年 2 回の参加費用を補助し、発表者には別枠で経費の補助があります。
<p>指導責任者</p>	<p>入江 克実 【内科専攻医へのメッセージ】 地域医療支援病院として積極的に救急医療を展開している当院では、冠動脈インターベンション、脳梗塞超急性期 tPA 治療、緊急内視鏡治療など様々な内科的救急疾患を経験できます。また、糖尿病や腎疾患・肝疾患についても深く専門的な医療を学ぶことができます。広い総合医局で消化器外科・脳外科・泌尿器科など外科系診療科との垣根が低いことも特徴で、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、 日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本消化器内視鏡学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本内分泌学会専門医 1 名、 日本神経学会専門医 1 名、日本脳卒中学会専門医 2 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 6,020 名 (1ヶ月平均) 入院患者 400.5 名 (1ヶ月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、消化器、循環器、代謝、腎臓および神経の内科治療を経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、内科救急との関連を問わず幅広く経験することが可能です。
<p>経験できる技術・技能</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 内科系救急疾患を中心に、冠動脈インターベンション、脳梗塞超急性期 tPA 治療、緊急内視鏡治療など、幅広い診療を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>高齢者人口の増加に伴い救急に占める内科の役割は増してきており、在宅診療と関連を含めて地域医療・診療連携を経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会認定教育関連施設</p>

	<p>日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脳卒中学会認定専門医研修教育病院 日本老年医学会認定施設 日本病理学会研修登録施設 放射線科専門医修練協力機関 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設</p>
--	---

13. 医療法人 西福岡病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・女性専攻医でも安心して勤務できるように女子更衣室、女子シャワー室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が9名在籍しています（下記）。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、呼吸器の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を毎月実施しています。 ・専攻医が国内の学会に参加・発表する機会があります。
<p>指導責任者</p>	<p>原田泰子 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡市内で唯一結核病棟がある医療機関です。 結核の診断、治療を経験することができます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会総合内科専門医 3名 日本呼吸器学会指導医 1名 日本呼吸器学会専門医 3名 日本結核病学会結核・抗酸菌指導医 1名 日本化学療法学会抗酸菌薬臨床試験指導者 1名 日本老年医学会老年病専門医 1名 日本消化器病学会専門医 3名 日本消化器内科内視鏡学会認定指導医 1名 日本消化器内視鏡学会認定専門医 1名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1名 日本糖尿病学会専門医 1名 日本循環器学会循環器専門医 1名 ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 206.8名 (1ヶ月平均) 入院患者 179.1名 (1ヶ月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>結核病棟を有し、結核の診断治療を経験できます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>地域の人々に信頼される納得と安心の医療・介護・福祉の提供を目指すことを法人理念に掲げており、結核の入院受け入れやその他の地域医療・診療連携を経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会</p>

14. 国立病院機構大牟田病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が6名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015年度実績 医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015年度実績 5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015年度地元医師会合同勉強会 10回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、呼吸器および神経の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2015年度実績 8体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 1 演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014 年度実績 6 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	<p>川崎 雅之</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>我々の病院は呼吸器科と神経内科に特化した病院です。呼吸器科は結核を含めた呼吸器領域すべての疾患を扱っており急性期から慢性期の疾患に多する診療を行っています。呼吸器外科と密接なカンファレンスを行っております。神経内科は神経内科疾患全般に亘る外来診療、神経難病・筋ジストロフィーを中心とした入院診療を行っています。←また認知症医療センターの指定を受け、認知症の鑑別診断、治療、ケア指導や医師向け研修などを行っております。高齢化とともに今後増加する呼吸器疾患、神経疾患に対する内科研修が可能です。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 6 名, 日本内科学会総合内科専門医 5 名</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名, 日本神経内科専門医 6 名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 1 名,</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 1660 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 353 名 (1 ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>1) 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群のうち, 呼吸器内科、神経内科の 2 領域のすべての疾患群の経験が可能です。</p>
経験できる技術・技能	<p>1) 呼吸器内科: 気管支鏡、胸腔ドレナージ、抗がん剤投与、緩和ケア、感染管理など</p> <p>2) 神経内科: 針筋電図、誘発脳波などの生理学的検査、高次脳機能検査</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>訪問診療医と連携した在宅医療、神経難病・筋ジストロフィーの在宅人工呼吸管理など</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本神経学会認定教育施設</p> <p>日本認知症学会教育施設</p> <p>など</p>

15. 門司掖済会病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスにはカウンセリング委員、および産業医が対応します。 ・女性医師スタッフも複数勤務しており、院内サークルでお茶、バトミントン、テニス、アンサンブルなどが活動しています。 ・更衣室、当直室が整備されています。 ・近隣に一般保育施設、病児保育施設があります。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が5名在籍しています（下記）。 ・診療委員会に内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014年度実績 医療倫理 1回、医療安全 2回、感染対策 2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を開催（2014年度実績 3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2014年度実績地元医師会合同勉強会 12回、多地点合同メディカル・カンファレンス 12回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野をまんべんなく専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2014年度実績 3体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014年度実績 2 演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014年度実績 12回）しています。 ・専攻医が国内の学会に参加・発表する機会があります。
<p>指導責任者</p>	<p>阿部 功</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>内科教育関連病院だけでなく日本高血圧学会認定研修施設となっており、高血圧に関するすべてに対応できます。また腎センターを設置しており、腎・透析専門医 4 名、臨床工学技士、看護師で構成され、透析患者数は血液透析・腹膜透析を合計し 120 名前後です。腎移植を除く腎疾患のすべてに対応できます。また、糖尿病専門医との連携により透析予防にも努めています。</p> <p>胃腸内科では 4 名の専門医が内視鏡検査・治療を行い、外科とのスムーズな連携をしています。外科は消化管、乳腺、呼吸器疾患にも対応しており、診断から手術、ストマケア、化学療法、緩和療法まで一貫して診ています。</p> <p>歯科・口腔外科医は 2 名体制で、地域病院・診療所との連携にも重点を置いており、口腔外科を中心とした歯科治療、外傷や炎症などの救急にも対応しています。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 1 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本高血圧学会専門医 2 名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 7,100 名 (1ヶ月平均) 入院患者 180 名 (1ヶ月平均)</p>
<p>病床</p>	<p>199 床 (急性期 186 床、地域包括ケア 13 床)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群のうち、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。高齢者が多く、多病を有する患者が多いので、総合的診療の実践が可能です。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>1) 技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。複数の疾患を併せ持つ高齢者が多いので、検査・治療の適応、安全確認などに注意しながら</p>

	<p>ら実施していただきます。</p> <p>2) 終末期ケア, 緩和ケア, 認知症ケア, 褥瘡ケア, 廃用症候群のケア, 嚥下障害を含めた栄養管理, リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期病床と地域包括ケア病床を有しており、急性期医療から在宅復帰へのスムーズな移行を支援しています。</p> <p>在宅緩和ケア治療, 終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院</p> <p>日本高血圧学会専門医認定施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本透析医学会教育関連施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本外科学会外科専門医制度修練指定施設</p> <p>日本消化器外科学会専門医制度関連施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本整形外科学会研修施設</p> <p>日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設</p> <p>日本麻酔科学会麻酔科認定病院</p> <p>歯科・口腔外科臨床研修施設</p>

16. 社会保険直方病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・福岡県社会保険医療協会の正職員（常勤）として採用されます。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が3名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014年度実績 医療倫理2回、医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCは年1回行います（2012年1回 2014年1回） ・地域参加型のカンファレンス（2014年度地元医師会主催連携カンファレンス2回、2015年度同2回、直方病院主催連携カンファレンス2014年度3回 2015年度同2回、医師会フィルムカンファレンス（当院内で開催）2015年度4回。地元医師会主催研修会月1回。定期的に専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器腎臓、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2012年から2014年まで2体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計1演題以上の学会発表（2014年度実績2演題 2015年度1回）をしています。 ・倫理委員会を設置しています（不定期に年数回）。 ・専攻医の学会参加・発表を推進します。
指導責任者	<p>坂本 茂</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>地方の病院で強く要請される、総合内科を経験してください。高齢者の救急入院も多く、介護との連携も身をもって経験できます。高齢者の生活への視点をもった、内科診療が実践できます。小さな病院です所以他科との連携も取りやすく、単なる内科修練以上の経験が積みあがります。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 3名、日本内科学会総合内科専門医 2名 日本消化管学会専門医 1名、日本消化器病学会消化器専門医 4名、日本循環器学会循環器専門医 2名、日本肝臓学会専門医 2名 日本消化器内視鏡学会専門医 2名、ICD2人、ほか
外来・入院患者数	外来患者 5804名（1ヶ月平均） 入院患者 169.7名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群のうちほぼすべて。
経験できる技術・技能	1) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます 2) 特に消化器内視鏡検査、心カテ検査 血液透析。
経験できる地域医療・診療連携	地方の中核病院ですので、在宅支援の立場から地域医療・診療連携を十分に経験できます。地域包括ケア病棟があり、入院から在宅までの流れを経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病 日本循環器病学会専門医指定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度修練施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

17. 社会保険稲築病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを今後定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（糖尿病研究会、消化器病症例検討会）について、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、血液、糖尿病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 0 演題）を予定しています。
指導責任者	<p>篠崎 博嗣</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>社会保険稲築病院は福岡県飯塚医療圏の嘉麻市の北部に位置し、「急性期医療からリハビリ、在宅、介護までのトータルケア」を念頭に、地域に密着した病院です。</p> <p>現行の医療制度を勉強していただいた上で、急性期医療後の Post-acute のケース、在宅医療からの Sub-acute のケース、神経難病等の慢性期医療のケース、がんのみならず高齢者慢性疾患の終末期医療のケース等、各ケースがどの入院カテゴリーの対象となり、どのような医療が行われるのかを研修します。</p> <p>また、訪問診療も担当し高齢者医療のゴールである在宅医療の実践についても研修します。</p> <p>内科専門医として、必要な医療介護制度を理解し、「全身を診る医療」、治す医療だけではなく「支える医療」、「医療と介護の連携」について経験し、2025 年に向けて日本が舵を切った「地域包括ケアシステム」を学ぶ研修になると考えます。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会認定医 3名、日本糖尿病学会専門医 1名 日本消化器病学会専門医 2名、日本消化器病学会指導医 1名、 日本血液学会専門医・指導医 1名、日本内視鏡学会専門医・指導医 1名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 168 名 (1 日平均) 入院患者 155 名 (1 日平均)
病床	181 床 (一般病棟 38 床、地域包括ケア病棟 42 床、医療療養病棟 101 床)
経験できる疾患群	当院では、代謝、呼吸器、消化器疾患、癌末期の患者を積極的に診ており、また高齢者が圧倒的に多い病院です。 高齢者は複数の疾患を併せ持つため、疾患のみを診るのではなく全身を総合的に診る医療の実践が可能になります。
経験できる技術・技能	技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。 このとき、複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施していただきます。 終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能で

<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>す。</p> <p>当院は医師，看護師，介護士，リハビリ療法士，薬剤師，栄養士，MSW によるスキルミクス（多職種連携）を実践しています。チーム医療における医師の役割を研修します。</p> <p>また病院内には訪問看護，訪問介護，訪問リハビリテーション，通所リハビリテーションを有し，切れ目のない部署間連携も研修します。さらには急性期病院との連携，かかりつけ医との連携，ケアマネージャーとの連携など地域医療介護連携を重視しています。病院退院時には退院前担当者会議を開催してケアマネージャーや在宅医療との顔の見える連携を実施していただきます。</p> <p>定期的に地域のケアマネージャーの方々に対して地域包括ケアに対する勉強会を開催しており，グループワークや講師を経験していただきます。</p>
-----------------------	--

福岡東医療センター内科専門研修プログラム管理委員会

(平成 30 年 6 月現在)

福岡東医療センター

中根 博 (プログラム統括責任者, 委員長、神経分野責任者)
黒岩 三佳 (プログラム管理者, 委員長、血液分野責任者)
片渕 律子 (腎臓内科分野責任者)
高田 昇平 (呼吸器内科分野責任者)
小池 宏明 (循環器分野責任者, 事務局代表)
田中 宗浩 (消化器内科分野責任者)
野原 栄 (内分泌・代謝分野責任者)
奥山 稔朗 (救急分野責任者)
肥山 和俊 (感染分野責任者)
(事務担当: 管理課 庶務係)

連携施設担当委員

九州大学病院	三宅 典子
九州がんセンター	杉本 理恵
小倉医療センター	佐藤 丈頭
製鉄記念八幡病院	古賀 徳之
原三信病院	高木 陽一
福岡市民病院	小柳 年正
福岡山王病院	徳松 誠
宗像医師会病院	伊東 裕幸
宗像水光会総合病院	竹本 真生
福岡和白病院	田口 文博
福岡病院	吉田 誠
白十字病院	入江 克実
西福岡病院	中垣 充
大牟田病院	笹ヶ迫 直一
門司掖済会病院	藤井 健一郎
直方病院	坂本 茂
稲築病院	定村 伸吾

オブザーバー

内科専攻医が決まり次第、代表者を選任する予定です。

福岡東医療センター内科専門研修プログラム 専攻医研修マニュアル

1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- ① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- ② 内科系救急医療の専門医
- ③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
- ④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

福岡東医療センター内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、

福岡県粕屋保健医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

福岡東医療センター内科専門研修プログラム終了後には、福岡東医療センター内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

2) 専門研修の期間

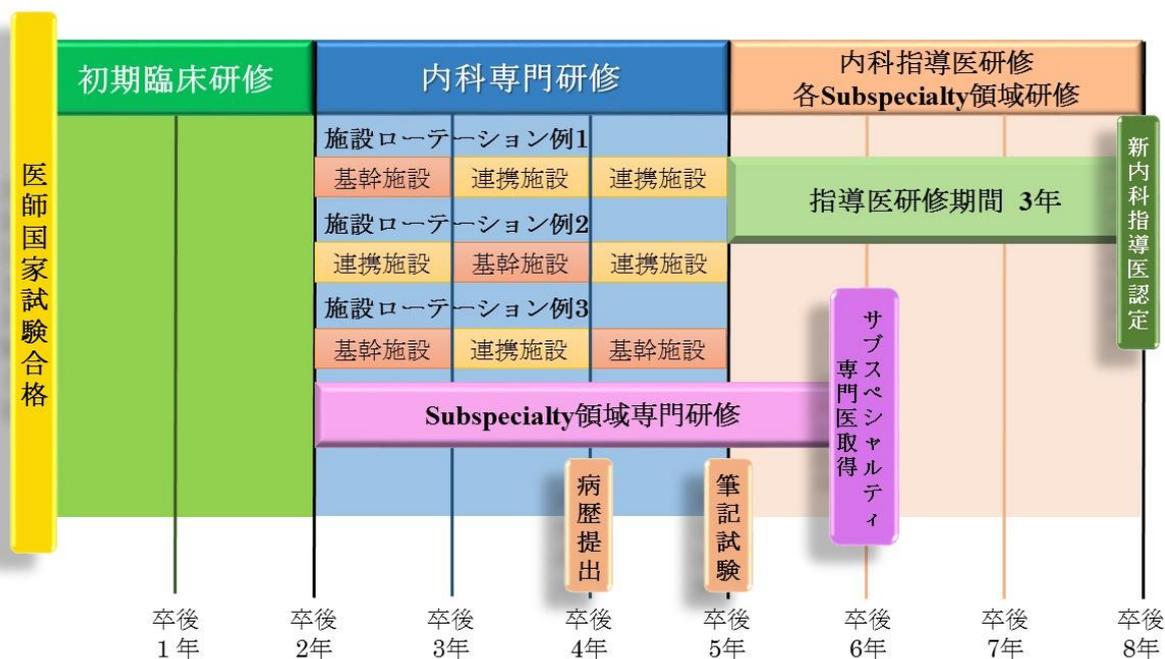


図1：福岡東医療センター内科専門研修プログラム(概念図)

基幹施設である福岡東医療センター内科で、専門研修（専攻医）3年間に1～2年間の専門研修を行います。連携施設での研修も同様に専門研修（専攻医）3年間に1～2年間の専門研修を行います。

3) 研修施設群の各施設名（P. 15「福岡東医療センター研修施設群」参照）

基幹施設： 福岡東医療センター

連携施設： 九州大学病院，九州がんセンター，小倉医療センター，製鉄記念八幡病院，原三信病院，福岡市民病院，福岡山王病院，宗像医師会病院，宗像水光会病院，和白病院，福岡病院，白十字病院，西福岡病院，大牟田病院，門司掖済会病院，直方病院，稲築病院

4) プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

福岡東医療センター内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（P. 51「福岡東医療センター内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

指導医師名（作成予定）

5) 各施設での研修内容と期間

専攻医2年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）3年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3年目の1年間，連携施設で研修をします（図1）。

6) 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である福岡東医療センター診療科別診療実績を以下の表に示します。福岡東医療センターは地域基幹病院であり，コモンディジーズを中心に診療しています。

2017年実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
脳血管内科	447	1248
循環器内科	858	1108
糖尿病・内分泌内科	163	1576
血液腫瘍内科	370	490
腎臓内科	228	832
呼吸器内科	1470	2788
消化器・肝臓内科	1801	3032
感染症内科	127	108
救急科	156	3387

- * 膠原病（リウマチ）領域は診療科がありませんが、各診療科で診療しています。不足分は連携施設で経験していただく予定です。救急科の入院患者は少なめですが、これは入院時にすぐ担当診療科に振り分けているため、救急車搬送数は2,766台であり、walk-inの外来患者診療を含め、1学年7名に対し十分な症例を経験可能です。
- * 9領域の専門医が少なくとも1名以上在籍しています（P.15「福岡東医療センター内科専門研修施設群」参照）。
- * 剖検体数は2015年度10体、2016年度10体、2017年度10体です。

7) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

入院患者担当の目安（基幹施設：福岡東医療センターでの一例）

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます。

専攻医1人あたりの受持ち患者数は、受持ち患者の重症度などを加味して、担当指導医、Subspecialty 上級医の判断で5～10名程度を受持ちます。総合内科分野は、適宜、領域横断的に受持ちます。2年目10月以降は、経験症例の少ない分野を自由に選択できるようにします。

	専攻医1年目	専攻医2年目
4/5月	循環器	血液
6/7月	代謝・内分泌	感染症
8/9月	呼吸器	救急
10/11月	腎臓	自由選択
12/1月	神経	自由選択
2/3月	消化器	自由選択

- * 1年目の4/5月に循環器領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたり

ます。6月には退院していない循環器領域の患者とともに代謝・内分泌領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります。これを繰り返して内科領域の患者を分け隔てなく、主担当医として診療します。

8) 自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。

評価終了後、1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくします。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善をつくします。

9) プログラム修了の基準

① 日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いて、以下の i)~vi) の修了要件を満たすこと。

i) 主担当医として「[研修手帳 \(疾患群項目表\)](#)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上 (外来症例は 20 症例まで含むことができます) を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例 (外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます) を経験し、登録済みです (P. 61 別表 1「福岡東医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照)。

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理 (アクセプト) されています。

iii) 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あります。

iv) JMECC 受講歴が 1 回あります。

v) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります。

vi) 日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価 (内科専門研修評価) と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められます。

② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを福岡東医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約 1 か月前に福岡東医療センター内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉「[研修カリキュラム項目表](#)」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間 (基幹施設 1~2 年間+連携施設 1~2 年間) とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります。

10) 専門医申請にむけての手順

① 必要な書類

i) 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書

ii) 履歴書

iii) 福岡東医療センター内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。

③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

11) プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従う（P. 15「福岡東医療センター研修施設群」参照）。

12) プログラムの特色

- ① 本プログラムは、福岡県粕屋保健医療圏の中心的な急性期病院である福岡東医療センターを基幹施設として、福岡県粕屋保健医療圏、近隣医療圏および福岡市にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設 1～2 年間＋連携施設 1～2 年間の合計 3 年間です。
- ② 福岡東医療センター内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- ③ 基幹施設である福岡東医療センターは、福岡県粕屋保健医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモディジェーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- ④ 基幹施設である福岡東医療センターおよび連携施設での合計 2 年間（専攻医 2 年修了時）の研修で、「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P. 61 別表 1「福岡東医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。
- ⑤ 福岡東医療センター内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 1～3 年目のうちの 1～2 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- ⑥ 基幹施設である福岡東医療センターおよび専門研修施設群での合計 3 年間（専攻医 3 年修了時）の研修で、「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の主担当医

としての診療経験を目標とします（P. 61 別表1「福岡東医療センター疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。少なくとも通算で 56 疾患群, 160 症例以上を主担当医として経験し, 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。

13) 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

- ・カリキュラムの知識, 技術・技能を深めるために, 総合内科外来（初診を含む）, Subspecialty 診療科外来（初診を含む）, Subspecialty 診療科検査を担当します。結果として, Subspecialty 領域の研修につながることはあります。
- ・カリキュラムの知識, 技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識, 技術・技能研修を開始させます。

14) 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年3月に行います。その集計結果は担当指導医, 施設の研修委員会, およびプログラム管理委員会が閲覧し, 集計結果に基づき, 福岡東医療センター内科専門研修プログラムや指導医, あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

15) 研修施設群内で何らかの問題が発生し, 施設群内で解決が困難な場合の相談先
日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

16) その他

特になし。

福岡東医療センター内科専門研修プログラム 指導医マニュアル

- 1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割
 - ・ 1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が福岡東医療センター内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
 - ・ 担当指導医は、専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
 - ・ 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
 - ・ 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は **Subspecialty** の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と **Subspecialty** の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
 - ・ 担当指導医は **Subspecialty** 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
 - ・ 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時まで合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行います。
- 2) 専門研修の期間
 - ・ 年次到達目標は、P. 61 別表 1「福岡東医療センター専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について」に示すとおりです。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形式的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形式的に行って、改善を促します。
- 3) 専門研修の期間
 - ・ 担当指導医は **Subspecialty** の上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います。

- ・研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っている第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
 - ・主担当医として適切に診療を行っている認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除、修正などを指導します。
- 4) 日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) の利用方法
- ・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
 - ・担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形式的フィードバックに用います。
 - ・専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
 - ・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
 - ・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
 - ・担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。
- 5) 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いた指導医の指導状況把握
- 専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、福岡東医療センター内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。
- 6) 指導に難渋する専攻医の扱い
- 必要に応じて、臨時（毎年 8 月と 2 月とに予定の他に）で、日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に市民病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形式的に適切な対応を試みみます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。
- 7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇
- 所属する病院の給与規定によります。
- 8) FD 講習の出席義務
- 厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
- 指導者研修 (FD) の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER)

を用います。

9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり，指導法の標準化のため，日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し，形式的に指導します。

10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11) その他

特になし。

別表1 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時	専攻医3年修了時	専攻医2年修了時	専攻医1年修了時	※5 病歴要約提出数
		カリキュラムに示す疾患群	修了要件	経験目標	経験目標	
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5		70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※ 3
症例数※5		200以上 (外来は最大 20)	160以上 (外来は最大 16)	120以上	60以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる。

別表 2
福岡東医療センター内科専門研修 週間スケジュール (例)

福岡東医療センター内科専門研修週間スケジュール (脳血管内科)

	月	火	水	木	金	土・日
午前	入院患者診療					当直医 (脳血管内科と脳神経外科交代) が 24 時間体制で診療。講習会や学会への参加。
	内科総合外来	救急車対応	専門外来	救急車対応		
午後	総回診	検査 (血管造影、経食道心エコー、頸部血管エコー)	リハビリ回診	検査 (血管造影、経食道心エコー、頸部血管エコー)	専門外来	
	病棟 初期研修医 指導	救急車対応	病棟 初期研修医 指導	救急車対応	病棟 初期研修医 指導	
	症例検討会					
	当直、オンコール、研究会など					

- ★ 福岡東医療センター内科専門研修プログラム 4. 専門知識・専門技能の習得計画 に従い、内科専門研修を实践します。
- ・ 上記はあくまでも例：概略です。
 - ・ 内科および各診療科 (Subspecialty) のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
 - ・ 入院患者診療には、内科と各診療科 (Subspecialty) などの入院患者の診療を含みます。
 - ・ 日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科 (Subspecialty) の当番として担当します。
 - ・ 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。